

## LESSON 3 鎌倉幕府の成立と鎌倉文化

### Point 1 かまくらばくふ 鎌倉幕府の成立

- (1) へいし 平氏はなぜ滅亡めつぼうしたの？
- (2) よりとも 頼朝は、幕府ばくふを開く(1192)よりも前にしゅご守護・じどう地頭を置いた(1185)が、その本当のねらいは何だったのか？
- (3) 幕府のしくみをよく見て、どれか1つをなくしたらどうなるか？  
1つ1つの存在そんざい意義いぎを考えていってみよう。
- (4) 幕府成立後の公武二重支配こうぶにじゅうしはいの不自然さを考えてみよう。なぜこんなことが起きたのか？ また、いつになってこれが解消されたのか？
- (5) 武士はすべて御家人ごけにんなのか、それとも御家人でない武士もいたのか？
- (6) 御家人はなぜ将軍に従ったのか？

### Point 2 しっけん 執権政治

- (1) 源氏はなぜ3代だいで滅びたのか？ 北条氏ほうじょうしが力を持っていた理由。
- (2) 北条氏は、なぜ将軍にならないで執権しっけんについたのか？
- (3) じょうきゅう承久の乱は、なぜ起きなぜ失敗したのか？ その結果どうなったか？
- (4) ろくはらたんだい六波羅探題をなぜ置く必要があったのか？

- (5) **御成敗(貞永)式目**は、なぜ制定される必要があったのか？

### Point 3 武士の生活と鎌倉文化

- (1) 御家人はなぜ農村に住んだのか？
- (2) そのことによって、農民との関係はどうなったか？ また、農村に住むということは、軍事戦略的には有利か不利か、戦国時代と比較してみよう。
- (3) **新しい仏教**は、なぜ以前の仏教と違ってわかりやすく実行しやすいものである必要があったのか？
- (4) 鎌倉文化は、なぜ力強いものが多いのか？

### Point 4 元寇と鎌倉幕府の衰え・建武の新政

- (1) **元寇**に勝ちながら、このことがなぜ鎌倉幕府の衰えを加速したのか？  
元寇とこれまでの戦との内容の違いを考えてみよう。
- (2) 幕府は、なぜ**徳政令**を出したのか？その結果がなぜよくなかったのか？
- (3) **建武の新政**は、なぜ2年で失敗してしまったのか？

## LESSON 4 室町幕府と戦乱の時代

### Point 1 なんぼくちよう むるまちばくふ 南北朝と室町幕府

- (1) 多くの武士はなぜ建武の新政にふまん不満を持ったのか？
- (2) あしかがたかうじ足利尊氏きやうとは、なぜ京都に新しく天皇をたてる必要があったのか？
- (3) よしみつ義満は、なぜなんぼくちよう南北朝をごういつ合一できたのか？
- (4) 幕府は、なぜしゆご けんげん かくだい守護の権限を拡大したのか？
- (5) 守護は、なぜしゆごだいみやう守護大名に成長できたのか、鎌倉時代の守護と何が違うのか？
- (6) あしかが足利幕府は、成立のときから経済的基盤で弱じゃくてん点をかかえていた。それは、どんなことか？

### Point 2 わこう かんごうぼうえき 倭寇と勘合貿易

- (1) 九きゆうしゆう州や瀬戸内せとうちの武士・商人・漁民ぎよみんはなぜわこう倭寇になったのか？
- (2) なぜ、中国や朝鮮は幕府に倭寇の取締りとりしまを要求したのか？
- (3) 義満は、なぜかんごうぼうえき勘合貿易を始めたのか？また、始めなければならなかったのか？(Point 1 の(6)に関連)
- (4) なぜかんごうふ勘合符を用いたのか？

### Point 3 民衆の成長

- (1) 農村・農民の自立、団結は室町時代になると飛躍的に強まったが、なぜか？ 荘園の解体傾向・土一揆とのつながりも考えてみよう。
- (2) なぜ室町時代になると農業が急速に進歩したのか？ 農業技術の進歩・農民の自立化の観点から考えてみよう。
- (3) 商業も著しく発達したが、なぜか？ また、貨幣経済とは、どういうことか？

### Point 4 戦国の時代

- (1) 「応仁の乱(1467 ~ 1477)」は、なぜ重要視されるのか？ 原因と結果、およびその後への影響を考えてみよう。
- (2) 戦国大名は、領国の富国強兵のためどんな政策を行ったか？ 自分が領国の大名になったつもりで、富国の手段・強兵の手段としてどんな手を打つかを考えてみよう。あわせて荘園がどのような運命をたどったのかも。

### Point 5 室町時代の文化(北山文化と東山文化)

- (1) 室町時代になって、なぜ公家文化と武家文化が融合したのか？
- (2) 農民をはじめとして、民衆自身による文化の発達も芽ばえているが、なぜこれが可能になったのか？ 以前の時代とくらべ、農村の組織がどのように変わってきたのかを考え、「郷村制」の意義を考えてみよう。

## LESSON 3 鎌倉幕府の成立と鎌倉文化

### Point 1 鎌倉幕府の成立

- (1) 平氏一門で高位・高官を独占したため、朝廷・貴族・武士などの反感をかった(「平氏にあらずんば人にあらず」)。この氣運に乗って、源頼朝をリーダーとする源氏が、平氏を滅ぼした(1185年「壇ノ浦の戦い」)。
- (2) 頼朝は「武家政治の野望」を持っていたが、弟の義経が朝廷や貴族と結んで仲良くするのを武家政治の障害になると考え、義経を討とうとした。義経は姿を隠したが、頼朝は義経をさがす名目で1185年全国に軍事・警察の権力を行うことを朝廷に認めさせた。これが、「守護・地頭」である。
- そして、これを既成事実として1192年に「征夷大將軍」に任じるように朝廷に圧力をかける材料に使ったのである。「幕府」設立可能。
- (3) 各自、自分の目でみて「これが無かったら? 何に対する統制ができなくなるか?」と考えていきなさい。
- (4) 鎌倉幕府は成立当初は、関東一円に対する支配力を持っていただけであり、また朝廷の勢力(国司・郡司)が消えたわけでもない。だから、朝廷方と幕府方の二重の支配が行われることになってしまった。これでは、支配される方はたまったものではない。
- 幕府の支配だけが全国に行われるようになったのは、1221年の「承久の乱」で、幕府が朝廷に勝って朝廷勢力を排除してからである。
- (5) 勘違いしやすいが、頼朝(將軍)と「御恩と奉公」の主従関係を結んだ武士だけが「御家人」である。最初は関東の武士に多かったにすぎない。
- だから、当然に御家人ではない武士もいた。

(6) 土地を間にはさんだ「御恩と奉公」の主従関係から。

## Point 2 執権政治

(1) 頼朝は妻「政子」の実家の北条氏の援助であれだけのことができたともいえる。頼朝の死後は北条氏が実権を握っていた。2代将軍などは北条氏にとって邪魔なだけの存在であり2代,3代ともに暗殺してしまう。そして、頼朝の家系を抹殺するのである。

(2) 将軍を横取りしたとの評価を受けないため。実権さえもてればO.K.なのだ。

(3),(4) 常に政権を維持したい天皇方は、源氏3代が途絶え結末の中心を失った武士たちの混乱に乗じる好機と考えて幕府に挑戦した。結末に迷いのあった武士たちを北条政子の大演説が一本にまとめた。そして、わずか1か月で幕府側が勝利した。

その結果朝廷方の勢力はほとんど0に近くなり、ここで名目ともに幕府の支配が全国におよぶことになる(公武二重支配の解消)。そして京都に「六波羅探題」を置いて、朝廷の監視と、これまで勢力の及んでいなかった京都より西(西国)にらみをきかせるようにしたのである。

「承久の乱」の勝利で得た朝廷の多くの没収地に、功労のあった武士を恩賞として新たに地頭として任命し(新補地頭)、ますます勢力は強くなった。

(5) 頼朝以来、武士の裁判では基準になる法律がなく、先例や慣習によって裁判が行われてきた。「承久の乱」以後、土地関係の訴訟が非常に多くなったので、成文化する必要が生じた。

これは、律令とは別の初めての武士の法律であり、武士勢力の発展を天下に示して、御家人の信頼を得ることにもなる。

後世の武家法のもとにもなった。

### Point 3 武士の生活と鎌倉文化

- (1),(2) 領地の経営のため。このことは、武士と農民の距離を近く(親しく)する。しかし、いざという時に武士団(軍隊)としてまとまるには時間がかかって軍事戦略的には不利である。
- (3) 時代の表舞台に出た武士や農民には、時間と教養を持って余っていた貴族向けのこれまでの仏教ではわかりにくいので、信仰を第一とし、生活に直結する仏教を求めたからである。
- (4) 政権を得た武士の素朴で力強い好みを反映したから。

### Point 4 元寇と鎌倉幕府の衰え・建武の新政

- (1),(2) ふつう、戦は恩賞目当てにするものである。負けた方の領地などが恩賞にまわされる。ところが元寇では相手の領地を奪ったわけではなく、恩賞にまわせるものが無かった。

だから、幕府は恩賞を出せず御家人は出費の穴埋めをできなかった。経済的に困った御家人たちの救済として、借金を帳消しにする「徳政令」を出してとりあえず御家人を救ったが、これ以後誰も金を貸さなくなったので御家人はかえって困った。

結局幕府は御家人からも民衆からも信頼を失うことになるのである。かといって、幕府にはどうしようもないことだった。北条氏は、きっかけはともかく良い政治をしていただけに、元寇は災難だったとしか言いようがない。

ウロコ先生は北条氏に深く同情する。

- (3) 後醍醐天皇は、武士の力で鎌倉幕府を倒しておきながら、恩賞の点で武士に不公平にしたため、武士の信頼を失ったから。

## LESSON 4 室町幕府と戦乱の時代

### Point 1 南北朝と室町幕府

- (1) 後醍醐天皇は、武士の力で鎌倉幕府を倒しておきながら、時代錯誤の律令政治復活を目指し、恩賞の点でも武士に不公平にした。武士は武家政治の復活を望んだ。
- (2) この当時、天皇に刃向かうことは「国賊」とされ、非常に不名誉なことだった。後醍醐天皇に逆らった尊氏は賊名をさける必要があった。だから、南朝とは別に天皇をたてたのである。
- (3) 尊氏のころは、まだ南朝の勢力がかなり残っており、全国の武士は南朝方・北朝方に分かれて戦っていた。多くの武士は尊氏に味方したが、尊氏の死後も足利一族は団結して守護大名の統率に努力し、尊氏の孫の義満の頃には全国の武士は足利氏に服するようになった。
- 「頃は好し」とみた義満は、南北朝を合一して更に平和を固めようと、その頃には弱体化していた南朝方に合一を申し入れ、南朝方がこれを受けたため合一した。
- これにより、完全に武家政治が確立。
- (4),(5) 尊氏は、有力な部下の信任を持続させるために守護に任命し、また恩賞として荘園の年貢の半分をその国の守護に与えるようにした。守護はやがてそれだけにとどまらず、荘園や公領を支配下に組み込み、地頭をも従えるようになって、あたかも領国を支配するかのようになった(守護大名化)。
- 鎌倉時代の守護はその国の軍事・警察権を持っていたにすぎない。
- 守護の力の強大化によって、室町幕府は將軍家の力よりも守護大名の連合政権のようになりさまになった(義満の時だけが例外)。

- (6) 尊氏の大盤振舞おおばんぶるまいによって、幕府成立の時点から幕府の直轄地ちよっかつちは少ししかなく、幕府の財政は苦しかった。

このことは、幕府独自の軍隊もほとんど無い(=力が無い)ことを意味する。

## Point 2 倭寇と勘合貿易

- (1) 瀬戸内を根拠地こんきよちとしていた武士・海賊、九州の商人や貧しい漁民にとっては、中国や朝鮮沿岸えんがんを荒らし回することは手っ取り早くよいかせぎになった(彼らは船をあやつるブ口である)。
- (2) 明はその被害ひがいの大きさに困り果て、幕府に倭寇の取締りとりしまを要求して、その見返りみかえとして貿易を許した。
- (3) 義満は幕府の財政難を補うため(直轄地の少なさを思い出せ!)にこの話しに乗り、貿易の利益と引き換えに倭寇の取締りに応じた。
- (4) 正式な貿易船と倭寇を区別するために、「勘合符」という合あ札ふだを用いた。

## Point 3 民衆の成長

- (1),(2) 初期の荘園は領主ごとの単位たんいでまとめられていたため、農民の実際に生活するグループ分けとは一致していなかった。そのため、荘園の区画くかくを越えた団結などは難しかった。

室町時代になると、守護大名が荘園を侵略しんりやくし、支配するようになって、荘園領主の支配権は無いに等しくなった(荘園の解体傾向かいたいけいこう)。また、農業生産が技術の進歩で上がるにつれ、農民が自立化じりつかしてきた。そして、荘園ごとの垣根かきねを取り払った団結が可能になるのである(農村の自立)。こうして、力をつけた農民たちが荘園領主や守護大名の政あっせいにたいこう対抗した手段の1つが「土一揆どいつき」である。

- (3) 農業・手工業の発達によって「商品」が豊富になり(各地に「特産品」)、「運送手段」も発達(海は「問丸」、陸は「馬借」)、「市」も発達、そのうえ支払い手段である金銭も「宋銭・明銭」が豊富に流通し、商業発展の条件はすべてそろったから。貨幣を中心に動く経済(「貨幣経済」)。

## Point 4 戦国時代

- (1) 将軍義政の後継者争いを将軍家の力だけでは解決できず(原因)、有力大名のいわば「代理戦争」になった。はっきりした勝敗のつかないまま、いつのまにか戦乱は終り(結果)、「将軍家の無力さ」だけが表面化した戦争だった。上ににらみをきかすことができる者がいなくなれば、あとは世の中実力次第、「下剋上」の風潮が広まって「戦国時代」に突入することになる。
- (2) 「荘園の解体と直接支配」・「城下町の経営」・「年貢確保のための検地」・「鉱山の開発」・「分国法の制定」など。たくさんあげられたらエライ!

## Point 5 室町時代の文化

- (1) おもな守護大名は京都に住み、公家文化に親しんだため(初期)。また、「応仁の乱」の戦火を逃れて公家たちが地方の大名を頼って移住したため(後期)。
- (2) Point 3の(1),(2)のように、荘園単位だった農民がその解体するのに応じて、地域全農民の農民主体の大きな村落になり(郷村)、農民は大きな力を持つようになって地位が飛躍的に向上した(歴史的にみても、この頃の農民が一番強い)。だから、文化を楽しむ「ゆとり」が生まれたのである。このように地位が向上したのは農民ばかりではなく、商人を含め、一般的庶民についても同様。

「文化を楽しむには、生活にゆとりがなければならない」ことを念頭に置きなさい!!